

蛇の目がさ

朝の雨 千紙の雨 しとくとかりついで

いろ 音もなく 空かきふつと来る雨つぶ

どううつていろがかしう と空を蛇見ゆがて

みよ どんよりしていて何も見えなない

静かにふりつづく雨

蛇の目がさか にゆいそう

以茶かろ蛇の目がさかゆいおれであつた

上品な年令のいっただ性たむつたり

華段便いかにゆいと思いつつ

蛇の目がさを穿つ 死にとおあさ

大切なお切に紙にくるんでしよつておられた

それで何何にもなるゆい

あさ日 おもいきつて出して4尺

みれ 色かたない

氣にいつていた <sup>此茶</sup>紫色がたない

茶色のバリーくした紙にうつていろ

いつつ向たか 色もななくうつてしよつていろ

あつかりした

二れじや <sup>ア</sup> ~~ア~~ かさと同じ

から

その結果 蛇の目がさにはびつていい  
そのようなかさには 時代ふくれで 便甲する  
くさどいなり

みる目 カタログを見ていい

蛇の目がさ水のうてい

きれいな紫で ひどい雨、 強風にならんと

あ

オヤシと書いていい 蛇 こんどは

おい よく見ると二十回4の骨 紫色は

ポリエステル 色がよくあるニとけをい

こた田尻うす やすい

でも買えな 私は外紫さかま素なり

雨の日けもつての所か

蛇の目を深甲していい 自分と思つて4

2022  
6/8